

第47回日本美容外科学会総会・第151回学術集会
ランチョンセミナー 3

2024 **9.19**
Thu
12:00~13:00

虎ノ門ヒルズフォーラム

第3会場(5F メインホール2)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目23-3
虎ノ門ヒルズ森タワー 5F

カニューレ式ラジオ波による 低侵襲フェイスリフトの実践

座長

河野 太郎 先生

(東海大学医学部形成外科)

インモード社製カニューレ式バイポーラRFと
マイクロニードルRFを駆使したタルミ治療

演題1

浅井 智之 先生(加藤クリニック麻布)

Tomoyuki Asai

当院における3年間の
エンブレイスRF治療実績

演題2

上原 恵理 先生(THE ONE.)

Eri Uehara

インモード社製カニューレ式バイポーラRFと マイクロニードルRFを駆使したタルミ治療

演者

浅井 智之 先生(加藤クリニック麻布)

非侵襲的なタルミ治療器として、2002年以降、モノポーラの高周波(RF)治療器が登場し、経皮的な治療器として広まったと言えるが、いわゆるBulk Heatingであるがゆえ組織内での温度や深さをコントロールし難い。一方で、カニューレを直接組織内に穿刺し、内側から皮下結合組織ならびに皮膚を焼灼する方法では、より限局的に熱を伝達し温度も制御が可能である。

当院で使用しているEmbraceRFはカニューレ式のバイポーラRFであり、ダブル温度センサー(皮膚表面・組織内)、総エネルギー量表示により焼灼のコントロールが容易で、安全に施術することが可能である。また、太さ0.3mm(31G)のマイクロニードルRF(モフィウス)を用いてアウトサイドインの施術も併用することで、脂肪組織の減量、タイトニング効果をより期待できる。今回、当院での自験例を供覧するとともに、副作用ケース、施術におけるコツなどについても具体的に示したい。



当院における3年間のエンブレイスRF治療実績

演者

上原 恵理 先生(THE ONE.)

当院は、継続的な治療が希望される分野として、たるみを主訴とする分野に積極的に取り組んでいる。非侵襲的な治療は、メンテナンスとしても続けやすいが効果に限界がある。一方フェイスリフト手術は侵襲が大きすぎるため、希望する患者は少ない。たるみに対して、改善効果が高く、たとえダウンタイムがあっても目立つ瘢痕を残さず、1回で数年単位の持続効果を出せるエンブレイスRFを当院では積極的に行っている。エンブレイスRFでは、皮下組織にカニューレを挿入して内部から直接高周波(RF)を照射可能で、皮膚表面に当てたもう一つの電極に向かって電気を流すことで、皮下脂肪・皮下組織・真皮までに対し満遍なく熱が加わる仕組みである。エンブレイスRFでは、高周波を連続照射することにより、HIFUのような「点」ではなく、連続した「線」でのタイトニング効果を期待できる。内部と皮膚表面のダブルセンサーにより温度をモニタリングでき設定以上の温度になると自動的にRF照射が停止するため安全である。

当院では内部温度70度、皮膚表面温度を40度をカットオフ温度としているが皮膚表面に及ぶ熱傷は発生していない。温度も同時にモニタリングされ、皮膚の熱傷を避けることが出来る。また、当院においてはエンブレイスRF施術と同時にスレッドリフトと脂肪吸引を併用するケースも非常に多い。今回、当院における3年間のエンブレイスRF治療の実績を紹介したい。



共催：第47回日本美容外科学会総会・第151回学術集会 / インモード・ジャパン株式会社

